

第16回日韓アジア未来フォーラム

『日中韓の国際開発協力：新たなアジア型モデルの模索』

2016年12月1日（木）

韓国仁川市松島コンベンシア

SONGDO CONVENSA

東アジア日本研究者協議会 第一回国際学術大会

The 1st Annual International Conference of East Asian Consortium of Japanese Studies

主催: 東アジア日本研究者協議会
共催: ソウル大学校日本研究センター
後援: 韓国経済委員会 日本国際交流協会 全羅道知事
日時: 2016年11月30日(水)~12月2日(金)
場所: SONGDO CONVENSA



관광
안내



第16回日韓アジア未来フォーラム会場



司会：金雄熙
（仁荷大学教授）



第1期 (1950-1979年) 「貧しい中国」の対外援助
歴史的背景

- 日本と韓国はともに、国連、国際機構、特にアメリカから資金援助(無償と低金利融資)、技術、防衛援助を受けていた。
- 韓国側は国連、アメリカから援助を受けるほか、1966年から日本からもODAの援助を受けている。
- 日本側は被援助国でありながら、早くも1954年からアジアへの支援開始。1年間に1兆5000億円のODAで約160カ国を支援。1964年の東京オリンピックを経て1968年第2経済大国。
- 中国側はイデオロギー上、日韓と激しく対立、1972年9月に日本と国交正常化を実現したが、終始北朝鮮を支持するため韓国を国家として認めず「南朝鮮」と呼んでいた。
- 1974年の「ICA (国際協力事業団) の設立、援助の体制が確立。1975年に第1回先進国首脳会議参加。1978年ODA3倍計画発表。

発表者：李恩民（桜美林大学教授）



発表者：孫赫相（慶熙大学公共大学院院長）



≡二報告：李鋼哲（北陸大学教授）



挨拶：徐載鎮（未来人力研究院院長）



李鎮奎未来人力研究院理事長、今西淳子SGRA代表、SGRA関係者